

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル

創る



Vol. 23

2023.3

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.



CONTENTS

特集

01 北海道遺産

第4回選定遺産の紹介／下川町、北広島市、今金町、白老町、上士幌町
全日本下の句歌留多協会

07 地域が動く・プロジェクト最前線

■ 妹背牛町 みんなでつくる親子の交流拠点 from☆Moko

09 「つながる。HUBest」 【北海道型ワーケーション普及・展開事業】

人と地域との新たなつながりを生み出すワーク施設とコンシェルジュを紹介

■ しれとこらぼ(斜里町) 豊島和敏さん

■ KITAMI BASE(北見市) 西村貴子さん





写真提供：NPO法人北海道遺産協議会
(北海道遺産フォトコンテスト)



北海道遺産

令和3年、北海道遺産は第一回選定から20年の節目を迎えました。今回の特集では、これまでの歩みや取組等についてご紹介します。

掘り起こされた宝物を地域で守り、育て、活用していく中から新しい魅力を持った北海道を創造していくという道民運動が「北海道遺産構想」です。多くの北海道遺産には、深く関わりながら活動する「担い手」の皆様が存在します。地域の宝物を掘り起こし、育成・活用する過程で地域づくりや人づくりを展開し、自分が暮らすまちや地

北海道遺産構想とは

は 北海道遺産とは
次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体のものであるものとして選ばれたのが「北海道遺産」です。北海道の豊かな自然、北海道に生きてきた人々の歴史や文化、生活、産業、食など、様々な分野から選ばれています。そしてこの度、第一回選定から20周年を契機として、令和3年から第四回の募集・審査が行われ、昨年、6件の地域遺産が新たに北海道遺産に加わり、総計74件となりました。

域への愛着と誇りを醸成することによって、観光促進をはじめとする経済の活性化や地方創生につなげていきます。

選定基準は

選定の基準には学術的な価値や美的な価値など「客観的な評価基準」だけではなく、地域が保全・活用に取り組んでいるものや、今後の取組に期待できるものなどの「思い入れ価値」が大きなウェイトを占めています。この思い入れこそがこれからの北海道づくりにとって大切なものだと考えるからです。そして、この二つに「北海道らしさ」を加味して選定されています。一般的に遺産という言葉からは、「過去のもの」というイメージが広がりますが、「北海道遺産」は地域の未来を創造していく資産なのです。

次ページからは、北海道遺産の選定、北海道遺産構想の普及・啓発、地域が行う保全・活用の取り組みへの支援などの事業を行っているNPO法人北海道遺産協議会の取組及び第四回選定で新たに選ばれた遺産をご紹介します。

これまでの歩み 1997-2022

- 1997 (4月) 北海道知事(当時)が、「北の世界遺産構想」を提唱
- 2001 (5月) 北海道遺産構想推進協議会が設立
- 2001 (10月) 第1回選定25件を決定・公表
- 2004 (10月) 第2回選定27件を決定・公表(計52件)
- 2009 (4月) 協議会がNPO法人格を取得し、NPO法人北海道遺産協議会を設立
- 2018 (11月) 第3回選定15件を決定・公表(計67件)
- 2022 (10月) 第4回選定6件を決定・公表(既存遺産の名称変更※(計74件))

※江差町の2つの遺産を併せてひとつの名称として公表していたが、名称を変更し、2つの遺産として改めて登録。

第4回選定で新たに選ばれた北海道遺産6件をご紹介します！

しもかわの循環型森林文化
～森は光り輝く～（下川町）



◀機械化が進む冬山造材の風景



▲再造林された若い森林と成熟した森林に囲まれた下川市街地

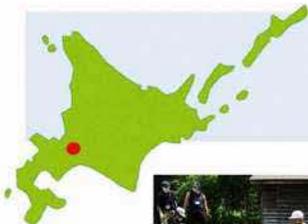
「経済・社会・環境」の調和による持続的な地域づくりを目指すため、基盤となる森林を活かすための理念である法正林思想※1により「循環型森林（もり）づくり」を行っています。

現在、年間50haの伐採、植林、育林の適正な森林管理を6年間サイクルで継続しています。

この仕組みで、「雇用の場の確保」、「安定的な木材供給」、さらに「木質エネルギー創出」、「森林のメカニズムによる脱炭素」を可能にし、SDGsの目標である『誰一人取り残されない幸せな日本一の町』を創るために、「循環型森林文化創造」を実践しています。

※1：毎年の成長量に見合う分の立木を一定量伐採、植林することで、持続的な森林経営が実現される森林のこと。

北海道米のルーツ「赤毛米」
～人々の想いが育んだ地域の誇り～（北広島市）



◀見本田での活動の様子



▲稲穂の毛の「芒」が赤褐色の赤毛米は、今や全国的なブランドとなった「ゆめぴりか」「ななつぼし」の先祖。現在も「北広島市水稲赤毛種保存会」の皆さんにより毎年栽培されています。

「赤毛」は、今や全国的ブランドとなった北海道米の先祖であり、寒さに強いこの種もみを使用して、明治6年に、現在の北広島市島松の地で、中山久蔵が寒地稲作を成功させました。道南以北での稲作は不可能とされた中、中山は高い志と努力を以って稲作を実践し、入植者たちに収穫した稲を無償で分かち、寒地生育の技術指導などの長年の支援を行い、北海道中に稲作が広まるきっかけを作りました。

「赤毛」とこのストーリーは、見本田の復活や学校授業、商品開発など、地域の人々の熱い想いにより、現在も地域の誇りとして保存され、引き継がれています。



今金・美利河の金山遺跡 ～後志利別川上流域の砂金採掘跡～ (今金町)



◀昭和期の後志利別川での砂金掘り



▲地表面に生々しく残る砂金採掘跡

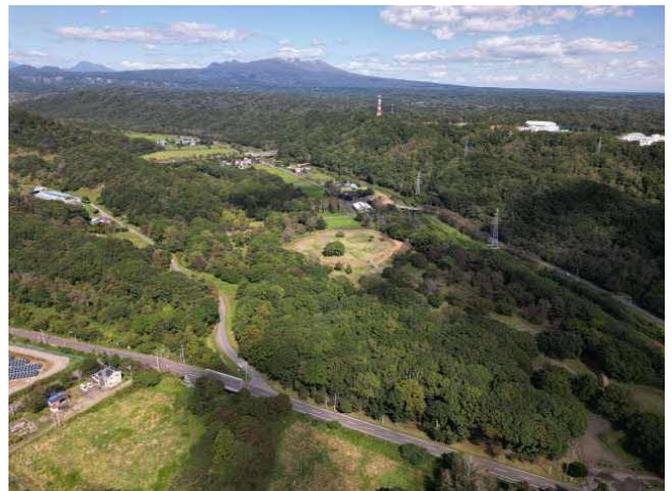
今金町の後志利別川上流域には、砂金採掘の遺跡が延長10km以上に渡って随所に見られ、源流域にはカニカン岳金山跡があります。これらは江戸時代前期の松前藩によるものとされ、特に美利河地区はその中心地で、現在も地表面に砂金採掘跡が生々しく残ります。本流域の産金地帯は当時としては国内最大規模を有し、大ゴールドラッシュの発生を物語ります。

幕末以降にも採金ブームが起き、特に明治期には北海道的な採掘技術を磨く場として歴史的に重要な位置を占めていました。昭和30年代まで砂金掘りで生計を立てる者がいて、当時の用具も残されています。

仙台藩白老元陣屋 ～幕末と明治維新を生きた北の防人～ (白老町)



◀北海道最古の赤松を望む



▲北辺防備の拠点仙台藩白老元陣屋

江戸幕府は、嘉永6(1853)年の黒船来航により鎖国政策を断念して、下田と箱館を開港し、同時に、西欧諸国の日本進出を警戒して、東北地方の各藩に蝦夷地警備を命じました。白老元陣屋は、安政3(1856)年に仙台藩が構築し、慶応4(1868)年の戊辰戦争により撤退するまで12年間存続しました。

陣屋遺構には、土塁、堀割の重要遺構のほか、藩士たちが故郷から移植した赤松による歴史的景観などが比較的よく残されており、当時勧請した愛宕神社や塩釜神社、御霊を祀る藩土墓地では、地域住民が一世紀以上に渡り、例大祭や供養祭を挙行しています。

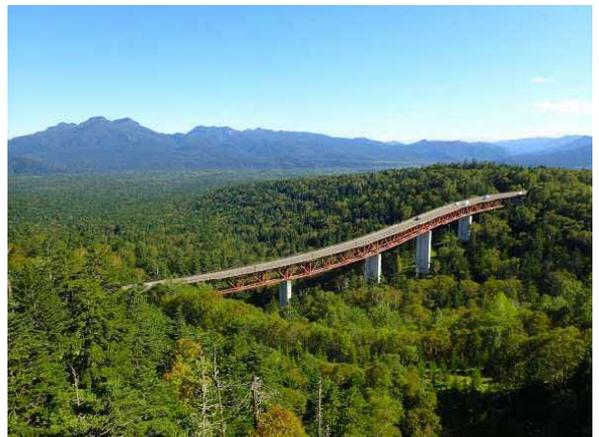


十勝三股の樹海 ～カルデラが生んだ生物多様性～（上士幌町）



▲高山や寒冷地の動植物が局所的に見られる永久凍土

また、この豊富な森林資源を求めて、過去大規模な林業集落が形成され、最盛期には約1500人と全国最大を誇り、運搬の旧国鉄士幌線とともに、地域の発展に貢献しました。



▲三国峠から見る十勝三股カルデラ

大雪山国立公園の東部に位置する十勝三股は、約100万年前の大規模噴火によつて形成されたカルデラです。約30万年前には湖が広がっており、その後、消失し樹海が成立しました。

十勝三股は、エゾマツをはじめとする広大な森林が広がるとともに、永久凍土などの寒冷地帯、温泉などの地熱地帯が共存することで、多様な生物が生息し生物多様性を高めているという特色があります。

下の句かるた ～木札、下の句にみる遊びの文化～（全日本下の句歌留多協会）



下の句かるたは、北海道に入植した人々により道内に普及しました。「木の札」であることと、小倉百人一首の下の句を読み上げる独特の競技は、北海道特有の遊びの文化であり、90年を超える歴史ある全道大会や小中学生の全道子ども大会（一般社団法人北海道子ども会育成連合会主催）も開催しています。

かるた競技は、厳格な雰囲気の中での対戦や緊張感の下で、礼節やチームワーク等を体験でき、世代を超えた交流や人間関係を学ぶきっかけにもなり、大人、子ども、性別を問わず競技を通して楽しみながら、日本古来の文化に親しむことに加え、地域コミュニティ発展の場として意義があります。



▲競技は3人对3人のチーム戦。前句の「韻」を聞き分けた瞬間に手を出す。



◀ホウの木のできた取り札は独特な書体で描かれている。

北海道遺産協議会について

北海道遺産協議会は、北海道遺産の誕生を前に、第一回選定と同年の平成13年5月に『北海道遺産構想推進協議会』として発足しました。

北海道遺産構想の生みの親である、北海道庁若手職員のプロジェクト『北の世界遺産推進方策検討プロジェクトチーム』が、文化財関係者はもちろん、経済や観光、地域づくりの専門家や民間企業の人々に幅広くも温かいアドバイスをいただき、民間組織が北海道遺産を推進することが、未来の北海道づくりに役立つとの提案をして設立されました。

それから20年。北海道遺産地域の皆さんと共に、事務局も世代交代しながら活動を続けています。

北海道遺産の魅力

北海道遺産は、自然や文化、史跡、産業遺産、食など様々な分野にわたっています。そのどれもが「北海道らしさ」の魅力を持っているものですが、世界や日本全体との繋がりが興味深いものばかりでもあります。

地名の手がかりを知ることができる「アイヌ語地名」は、北海道の自然や人々の生活と土地とのつながりに由来があり、地名から風景がみえるように感じられ、また、周辺の世界の人々との言葉の繋がりも学びたくありません。

「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」は、恵まれた地形と自然を背景に、日本の

中でも長く縄文文化が続きましたが、その暮らしぶりや精神文化など、他地域との違いや関連が興味深いです。

一方で、遺産や文化財と言われるものは、古くさいもの、詳しい人だけが語ってよいもの、というような難しさを感じる人もいるのではないのでしょうか。私もこの仕事に就くまでは全くの門外漢でした。ただ、古いものに興味があつて足を運び、地域の人々の話を聞くのが楽しくて関わり続けてきたように思います。

例えば、「森林鉄道蒸気機関車『雨宮21号』」が蒸気をあげて走る姿をキラキラした目で見つめる人。学芸員ではないからと戸惑いながらも地震で倒れた史料や濡れた文献を守る方法を考える人。カッパ姿で看板を支え、旧炭鉱施設のアート会場に人々を迎えていた長靴が似合い大きな声でいつも笑っていた人。

北海道遺産は、文化財だけでなく、それを保全活用し、未来につないでいく人が地域にいることでもあると思っています。



【現事務局メンバー・左が筆者（事務局矢野）】
これまで事務局に関わってきた人々が、地域とのつながりをつくってきてくれました。事務局の財産である、北海道遺産人（担い手）たちとのネットワークをこれからも繋いでいきたいです。





▲北海道ヘリテージウィーク



▲食で伝えるプロジェクト

NPO法人 北海道遺産協議会の取組

北海道遺産協議会では、北海道遺産の選定のほか、各地の北海道遺産の普及・啓発、地域が行う保全・活用の取組への支援など、様々な事業を行っています。ここでは令和4年度に実施した事業の一部を紹介いたします。

食で伝えるプロジェクト

身近な「食」をキーワードに新たな角度から魅力を伝えていく取組として、北海道遺産にまつわる様々な「食」のストーリーをSNSなどで発信しています。今年度は各地域で活動されている担い手の皆さんにもご協力いただき、イオンモール札幌発寒にてパネル展を開催しました。

北海道遺産フォトコンテスト

各地の北海道遺産に足を運んでもらうきっかけづくりとして実施しています。今年度は「あなたが伝えたい北海道遺産」をテーマに、グランプリ1点、準グランプリ2点（1ページ参照）、入選作品15点が選ばれました。

北海道ヘリテージウィーク

札幌駅前通地下歩行空間を会場に、北海道遺産パネルのほか、北海道遺産フォトコンテストの入賞作品や助成活動紹介パネルなどを展示。遺産地域のパンフレット等の配布や、パネルを巡るクイズやアンケートなども行っています。

寄附金による助成活動支援

北海道遺産協議会に寄せられた寄附金は、北海道遺産の活用・保全にかかわる活動に役立てています。

今年度の助成活動として、「ほっかいどう遺産WAON」による寄附金からは、北海道遺産の景観保全と環境整備の活動や天塩川流域の移動史探訪事業、道南ご当地カッター制作と子どもたちへの縄文文化普及啓発事業など、北海道遺産の保全に取り組み20件の地域活動に助成を行いました。

また、お〜いお茶『お茶で北海道を美しく。』キャンペーンによる寄附金からは、昭和新山の環境保全登山学習事業や野付半島の外来種駆除活動など環境保全に係る3件の助成活動に活用されています。静内二十間道路の桜並木の植樹では、ボランティアの皆さんに見守られながら桜の植樹式を行いました。

これからも地域や担い手の皆さんの活動の活性化につながるよう、様々な取組の支援を続けていきたいと思っております。



▲令和4年度 助成活動の様子

「ほっかいどう遺産WAON」について
イオン株式会社と北海道の包括連携協定に基づき、平成23年7月より「ほっかいどう遺産WAON」が発行されました。カードを使用して決済した金額の一部が北海道遺産協議会に寄附されます。寄附金は北海道遺産の保全活動等の地域活動に助成しているほか、北海道遺産の普及・啓発活動に活用しています。



お〜いお茶『お茶で北海道を美しく。』 キャンペーンについて

株式会社伊藤園のお〜いお茶『お茶で北海道を美しく。』キャンペーンは、期間中の「お〜いお茶」全飲料製品の売上の一部が北海道遺産協議会に寄附される活動で、平成22年度よりスタート。北海道遺産に選定されている貴重な自然環境や景観の保全活動に助成を行っています。





子育て世代交流施設「from☆Moko」

「Moseushi Kodomo」の頭文字をつなげて『Moko』
妹背牛町子ども達がここから成長していった欲しいという願いが込められています。

少年高齢化が進む妹背牛町では、全ての世代がともに協力し、町民同士がつながりを持てる暮らし続けたいまちづくりを推進するとともに、「移住・定住対策」を推進する各施策を展開しています。

子育て環境の充実や子育て世代との交流促進を図る上で、親子の交流拠点である「from☆Moko」（フロム・モコ）の存在は欠かせません。

モコを利用するお母さんの9割以上が町外から移り住んだ人たちです。建物の設計から携わり、移住者の要望がギユツと詰まったモコは、親子の笑顔が広がる和やかな雰囲気。町での生活や育児の悩みを気兼ねなく相談できる場所としても重宝されています。

子育て世代の活力を地域に広めるモコの役割は、移住のきっかけを後押しし、人口減少対策を進める上でも重要です。古民家を改修したモコの事例は、点在する空き家を地域資源ととらえて新たな価値を創り出し、「暮らしたい、暮らし続けたい」まちづくりへの大きな一歩となりました。

 **暮らしたい、暮らし続けたいまちづくり**

施設を整備するにあたり、まずは実際に施設を利用する子育て世代の要望の取りまとめから始めました。

就学前の乳幼児がいる全世帯へアンケート調査の実施、町内の子育てサークルにも意見・要望を聞き取り、必要な遊具など施設内の改修内容についてまとめました。

施設の場所についても、子育てサークルのメンバーと候補地の空き家3カ所を実際に回り、建物の状況や近隣の環境などを確認して選定しました。

こうして、子育て世代の要望を全て取り入れた仕様書を作成。改修業者については、作成した仕様書を基に企画提案をしていただくプロポーザル方式により選定しています。

施設に愛着を持ってもらおうと、内壁にしつこい色を塗るワークショップを開催。15組の親子が参加し、施設の整備内容の検討から建設作業まで、全て子育て世代が携わっています。

また、屋外遊具を備える裏庭の整地作業は、地元の建設業協会がボランティアで実施しました。

 **みんなで協力してつくる**



妹背牛町

みんなでつくる
親子の交流拠点
from☆Moko

北海道で3番目に小さな山のないまち「妹背牛町」は、北海道の母なる川「石狩川」が流れ、美味しいお米をつくるのに適した肥沃な大地が広がっています。

この小さなまちだからこそ、住んでいる町民同士がつながり、交流できる場所が必要です。今回は、地域みんなでつくる子育て世代交流施設「from☆Moko」を紹介します。



皆の声を取り入れた施設

施設は、「体を使った遊び」、「保護者の交流・いやしの場」がコンセプトとなっており、中2階の吹き抜け部分に張り付けられたハンモックネットや2階に昇れるボルダリングなど、子どもが楽しめる設備はもちろん、子どもたちが見える場所にあるカフェスペースや外遊びの後に手足を洗えるよう玄関に設置された洗い場など、お母さんならではのアイデアが詰まっています。

また、業者からは「赤ちゃんも利用するため、施設全体の水道水を浄化する設備」、「災害時にも発電機と接続し、避難場所として利用できる改修」などの追加提案があり、安全面でも安心です。



▶ハンモックネット



◀玄関に設置された洗い場



▲ボルダリング



施設での活動

開設日には自由に親子が集まり、子どもたちは施設内や屋外遊具で自由に遊び、それを見守る保護者たちの交流の場となっています。

また、定期的にイベントも開催しており、「クリスマス会」や「冬休み工作教室」など子どもが対象のイベントはもちろん、「骨盤教室」や「マタニティのつどい」など、妊婦・保護者向けのイベントも行っています。

施設は、30代から70代の子育て経験がある女性スタッフが自身の経験を生かしながら運営にあたっており、色々な特技を持っているスタッフが講師となってお母さんに編み物を教えたり、子どもたちに工作を指導したり、イベントでお菓子を手作りして参加者に振る舞うなど、利用者とスタッフの交流も積極的に行われています。



▲クリスマス会の準備



▲お母さんの日頃の疲れをいやすためのハンドマッサージ



施設の効果

町の課題であった空き家を活用して整備したことにより、新築に比べて費用を4割抑えることができました。

また、モコの整備後、町で実施している中古住宅購入支援事業の活用が少しずつ増えています。これは、町が率先し空き家の活用を行ったことにより注目が集まり、空き家の解消につながったものと考えます。

不要な空き家を子育て世代の交流拠点に改修した施設は、子どもたちはもちろん、母親同士の交流も深めることができるため、町民が主体となって運営を進めています。

近年、子育て世代の移住が増えています。地域への開放を目指すこの施設をきっかけに関係人口の増加も期待されます。



◀広々としたアイランドキッチンではみんなで料理を楽しめます。

▶子どもだけではなく、お母さんの交流の場ともなっています。



今後の展開

現在も、屋外の広場にいくつかの遊具を設置していますが、来年度は企業版ふるさと納税で寄附を募り、さらに子どもたちが楽しめる遊具を設置したり、土の上でより安全に遊べるよう芝を張りたいと考えています。

また、現在は子どもだけでの利用は認めていませんが、いずれは児童館的な機能も持たせて、さらなる子育て・教育環境の充実を図り、移住施策にもつなげていきたいです。

回覧板などで施設の紹介はしていますが、さらに子育て世帯以外にも関心を持ってもらう必要があります。施設利用者からは「高齢者から昔の遊びを教えてもらうイベントを開催してほしい」、「定年後で時間に余裕がある方たちに勉強を教えてもらいたい」などの、三世交流を求める声もあがっていることから、一般町民も参加できるようなイベントを企画し、色々な世代の方が関わり、つながりを広げ、町全体で子育てをしていけるような仕組みづくりをしていきたいです。



▲走り回れる広大なグラウンド



▲屋外に設置されている遊具

本記事の内容は、妹背牛町健康福祉課で担当しております。
○事業に関するお問い合わせ先 TEL:0164-32-2412



北海道型ワーケーション普及・展開事業

つながる。HUBest

人と地域がつながるベストな場所が北海道にはある

「つながる。ハーベスト」とは？
「新しい働き方」として注目されているワーケーション。その魅力のひとつでもある、人と地域とのつながりを通じて新たな活動を生み出すことができるワーク施設と、そこでの出会いを創り出すコンシェルジュをインタビュー形式で紹介しています。

第九弾 斜里町

しれとこらぼ



とよしま かずとし
豊島 和敏さん
(一社) 知床スロウワークス 会長



無料とは凄いですねー改めてこちらを立ち上げた経緯や施設のコンセプトを教えてください。

斜里町では、平成27年に総務省の「ふるさとテレワーク実証事業」に採択されたことを機にテレワークの呼び込みを始めました。当時はテレワークがあまり認知されていない時代でしたが、行政よりも民間の人間が対応した方が良いとの声があり、町内の不動産業や司法書士、ペンション経営など様々な業種に携わる有志が集まり、「知床スロウワークス」を立ち上げました。

「知床スロウワークス」では具体的にどのような取組をされていますか？

仕事支援としては「しれとこらぼ」の管理運営、テレワーカーに対する生活支援としては町内の飲食店や観光情報の提供等を行っています。首都圏から来られる方は、きっと斜里町のことをあまり知らないなので、生活や仕事をする上で困っていることをサポートしています。

あと、「知床スロウワークス」の取組としてはここがポイントとなりますが、斜里町民にもテレワークを知ってもらうために、シンポジウムや勉強会を行ったりもしています。

「しれとこらぼ」とは？
こちらはテレワークセンターという位置づけですが、基本的には企業向けの施設なのでしょいか？
はい。企業の方に使ってもらうための施設で、事前に申込みいただければ、1階のワークスペースと2階の宿泊スペースを無料でご利用いただけます。

しれとこらぼで「つながる」

テレワークに来られる方は、どのような業種の方が多いのでしょうか？

平成27年に受入開始した当初はIT企業が一番多かったのですが、今はいろいろな方に来ていただいています。以前は年間250名くらい受け入れてまして、コロナ禍で大分落ち込みましたが、令和4年は6月から10月頭までずっと予約で埋まっていました。

数多くの企業が訪れている中で、地域とつながったエピソードがあれば教えてください。

斜里町では、毎年「ねぶた祭り」を開催しているのですが、町内の参加者が年々減少していることが課題になっています。ちょうどお祭りの時期に損保ジャパン(株)と(株)日立製作所の社員がテレワーク合宿に来ていて、是非地元のお祭りに参加してみたいとのことで、1週間ほど山車や太鼓の練習をした上で、お祭りに出てもらいました。

これからはどのような企業にきてもらいたいと考えていますか？

来てくれるなら、どのような企業であってほしいです。
ただ、目指すところとしては、テレワークをするだけでなく、外部からの視点でまちづくりを考えてくれたり、自社の強みを生かして地域の小中学生に授業をしてもらったりと、地域と深くつながってもらい、斜里町を好きになって、また仲間を連れて戻ってきて欲しいと考えています。

そして、将来的には斜里にオフィスを設けてくれたりすればうれしいですね。



斜里テレワークセンター「しれとこらぼ」
1階にワークスペース、2階には居住スペースを併設し、事前の申込みにより無料で利用できる(条件あり)



第十弾 北見市

KITAMI BASE



にしむら たかこ
西村 貴子さん
(株) アイエンター



Uターンのきつかけ

— 西村さんは北見市近郊の美幌町ご出身で、東京の大学進学・就職を経て、北見市にUターンされたとのことですが、キタミベースで働くことになったきっかけを教えてくださいませんか？

東京で出産した直後に東日本大震災がありました。当時私の家から職場までは、朝のラッシュ時だと1時間くらいかかり、仕事中に何かあってもすぐに子どもを場所に行けないことに不安を感じました。そうした危機感から、何か起こる前に

自分が納得できる場所に帰ろうと思ったのが、今から11年くらい前のことです。

北見にUターンするまでの間は、地方でも収入が得られるように手に職があった方がよいと考え、都内の会計事務所転職するなど、Uターンに向けた準備をしてきました。事務所では、まだ新型コロナウイルス感染症が流行する前にテレワーク制度をつくったのですが、ちょうど同じ時期に、テレワーク移住を推進していた北見市の関係者の方々にお会いする機会があり、「テレワークでUターンするなら応援するよ！」と熱心に仰っていただいたこと、当時の勤務先の社長が応援してくれたことが、北見市を選ぶ後押しとなりましたね。

「キタミベース」とは？

— 続いて、キタミベースのコンセプトを教えてくださいませんか？

— ここは、文字どおり北見の「基地」になりたいとの思いから名付けました。ただの場所貸しでなく、人にフォーカスした取組をする場、そして働き方がフリーになった人たちをつなぎとめる場となることを目指しています。

— どの様な方が利用されていますか？

主に首都圏や札幌市から、北見市や市内企業、大学等との仕事で出張に来られる方に利用いただいております。割合としては道内と道外で半々くらいですね。



最新セキュリティシステム（顔認証）やCO2濃度計測システムも完備しており、快適に利用できる。

— ワーケーションで来られた方の「地域の人とつながりたい!」「どんな体験ができるか教えて欲しい」といった要望にも、お応えいただけるのでしょうか？

もちろんです！スタッフとして対応できるのは私と、同じくUターンした岩田、そして平田の3名になります。平田は、北見工業大学出身で、カーリング選手として2018年の平昌オリンピックにも出ており、地域でもすごく顔が広く、様々なつながりをもっています。

冬のオホーツクはその寒さと流水が体験できるため、意外と首都圏からのワーケーションの方々には人気です。そういった方々から、地元の人にアテンドしてほしいという要望をいただくことが多いので、私たちのようなコンシェルジュがいる施設を選んでいただいております。

— これからキタミベースに来られる方にメッセージをお願いします！

北見市には美味しい食や春夏秋冬のアクティビティが充実しています。快適な仕事環境を提供できるキタミベースもあるので、ぜひ仕事も観光も充実した時間を過ごしていただきたいと思います。

私たちがキタミベースを外から来られる方と市民の方をつなぐ場にするため、これからも色々イベントを実施していきます。是非、足を運んでみてください！

このインタビュー記事は、誌面の都合により抜粋版を掲載しています。

インタビュー全文については、北海道公式HPにて公開していますので、是非ご覧ください。



インタビュー全文はHPをCheck!

該当する施設を月1回程度、HPでご紹介!



「つながる。ハーベスト」対象施設

- テレワークができる施設
- 地域を知るコンシェルジュがいる施設
- 誰もが気軽に利用できる施設
- 地域住民も利用している施設

DORS. hokkaido

北海道の扉を開こう。

「DORS. hokkaido」は、 北海道各地域との

新たな「かかわり方」を見つけられるサイトです。

様々なかたちで地域と関わる関係人口は、
地域づくりやビジネスなど、多様な関わりを通じて地域社会に新しい風を吹き込んでいます。
本サイトで、北海道の各地域と気軽に繋がるための新しい「かかわり方」をご紹介します。

詳しくは
こちらをチェック

北海道 関係人口



<https://kankei.pref.hokkaido.lg.jp>



Twitter



Instagram



サイトに関するお問合せ先

北海道総合政策部地域創生局地域戦略課
〒060-8588札幌市中央区北3条西6丁目

☎011-204-5131



「創る」バックナンバーは、「ほっかいどう応援団会議ポータルサイト」へ

バックナンバーは
こちらから！

ほっかいどう応援団会議

🔍 検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>